

高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

柳 忠宏¹ 西村 昭徳² 佐々木和義³

本研究では、高等学校における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係を検討することを目的とした。相関分析の結果、男女全体においては情報活用の実践力における処理力や創造力が、社会的スキルと関係の強いことが示された。高度情報通信社会が展開する中において、情報を適切に処理し、新たな情報を創造できる能力を兼ね備えた高校生が、結果として社会的スキルも高い関係にあることが示唆された。

キーワード：高校生、情報活用の実践力、社会的スキル

問題と目的

情報通信白書（総務省, 2014）にみられるように、我が国ではコンピュータやスマートフォンなどの情報機器が広く普及し、それら機器を使いこなすことが求められる高度情報通信社会が展開している。

既に文部省（現文部科学省；1998）においては、情報通信社会の進展を想定して、初等中等教育段階で育成すべき力の1つとして、「情報活用の実践力」を整理し、情報教育の目標とした。「情報活用の実践力」とは、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力としている（文部省, 1998）。また、高比良・坂元・森・坂元・足立・鈴木・勝谷・小林・木村・波多野・坂元（2001）は、情報活用の実践力について、①収集力、②判断力、③表現力、④処理力、⑤創造力、⑥発信・伝達力の6つの心理的因子の存在を指摘している。

一方で、文部科学省（2002）の報告にも見られるように、急速な情報化は学校生活の適応面に悪影響をもたらす可能性は指摘されてきた。また、総務省（2011）によれば、インターネットや携帯電話等を介したいじめや誹謗中傷などの存在が、青少年の社会性への悪影響を与えていることを報告している。特に、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」いじめの様態は、児童生徒の区分の中で、高校生が最も高い割合にあることが報告されている（文部科学省, 2014）。また、高校生の問題行動においては、長期化する不登校や校内暴力、中途退学者数が依然として高い水準にあることも報告されている（文部科学省, 2014）。したがって、高校生の問題行動の要因の1つと

して、社会の急速な情報化による社会性への悪影響の存在が推察される。高校生は、就職や大学進学等を控えており、キャリア形成の上で重要な発達段階にあることから、情報活用と社会性の能力面についての知見を把握する必要がある。

高校生の社会性について河村（1999）は、学校での適応や関わり方の指標の1つとして、社会的スキルの存在をあげている。また、菊池（2007）は社会的スキルとして、①「問題解決のスキル」（相手との関わりの中で、仕事かてきばきと進められるもの）、②「コミュニケーションのスキル」（言語・非言語を含めたコミュニケーションを実現するもの）③「トラブル処理のスキル」（トラブルが大ごとにならないようにする為のタイミング的なもの）の3つの因子を指摘し、高校生でも活用できることを指摘している。

以上より、高度情報通信社会が展開する中において、高校生の情報活用の実践力と、学校生活での適応に関連する社会的スキルについての関係性を検討する必要がある。本研究では、高等学校における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係を検討することを目的とした。

方 法

調査対象について

調査対象は首都圏に所在する私立の高等学校1校における高校2年生であった。調査対象の人数および性別は、総数279名であり、内訳として男性182名、女性97名であった。

調査対象校の特徴として学業に力をいれた普通科の進学校で、毎年多数の生徒達が難関大学へ進学している。校則は厳しく、例えば挨拶や礼節はしっかりと指導され、服装頭髪検査は定期的に行われている学校である。

調査時期

本調査は2011年4月において、研究実施者が教師と

1 東京成徳大学大学院心理学研究科

2 東京成徳大学

3 早稲田大学人間科学学術院

して担当した情報教科の授業アンケートの一環として実施された。調査対象の高校生は前年度の1年生次においては、情報の科目を履修していない状態であった。

調査材料

調査対象の生徒への測定尺度として情報活用の実践力尺度（高比良・坂元・森・坂元・足立・鈴木・勝谷・小林・木村・波多野・坂元，2001），社会的スキル尺度 Kikuchi's Scale of Social Skills:18 items（菊池，1988，2004，2007；以下 KiSS-18と記す）を、「5・よくあてはまる」，「4・すこしあてはまる」，「3・どちらともいえない」，「2・あまりあてはまらない」，「1・まったくあてはまらない」，の5件法によって用いた。回答方法に関しては、対象校によってセキュリティ管理されたサーバ上に授業アンケートとして設置し、コンピュータ上で生徒が匿名で回答する形式をとり、回答データは校内で電子化された。

情報活用の実践力尺度の構成

文部省（当時）における「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進などに関する調査研究協力者会議」（1998）の定義によれば、情報活用の実践力とは、「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」とされている。

情報活用の実践力尺度（高比良ら，2001）においては、54項目の質問項目があり、因子構成として情報の①収集力、②判断力、③表現力、④処理力、⑤創造力、⑥発信・伝達力が測定できる内容となっている。高比良ら（2001）は、中学生977名（男性499名、女性478名）、高校生414名（男性273名、女性141名）、大学生258名（男性137名、女性121名）、計1649名（男性909名、女性740名）を分析の対象として因子の構成をおこなった。

第1因子の「収集力」は、「目的に応じて必要な情報をもれなく適切な手段で主体的に収集する能力」とされている。質問項目は10項目で、「興味を持った事柄については、徹底的に情報を集める」といった項目がある。

第2因子の「判断力」は、「数多くある情報の中から必要なものを選択し、内容を判断し、適切な情報を引き出す能力」とされている。質問項目は8項目で、「噂を聞いたときには、それがどのくらい根拠があるかを確認している」といった項目がある。

第3因子の表現力は、「情報表現の特性を理解し、伝えたい情報を適切な形式で表現する能力」とされている。質問項目は8項目で、「調べたことを整理するとき、文章だけでなく図や表も活用するよう心がけている」といった項目がある。

第4因子の処理力は「収集した情報に適切な処理を加えて、必要な情報を読み取る能力」とされている。質問項目は8項目であり質問の内容には、「多くの資料を検討して、結論を導くのは得意である」といった項目がある。

第5因子の創造力は、「自分の考えや意見を持ち、情報を創造する能力」とされている。質問項目は10項目で、「他人と異なる意見を出すのが得意である」といった項目がある。

第6因子の発信・伝達力は「受け手の立場や情報を処理する能力を意識して、情報を発信・伝達する能力」とされている。質問項目は10項目で、「相手の反応に気を配りながら話すほうである」といった項目がある。以上の因子構成から、情報活用の実践力は、①収集力、②判断力、③表現力、④処理力、⑤創造力、⑥発信・伝達力という6つの能力を総合したものとして考えることができる。

社会的スキル尺度 KiSS-18の構成

KiSS-18を制作した菊池（2004）によれば、社会的スキルは「対人関係を円滑にするスキル」であると指摘している。KiSS-18（菊池，1988，2004，2007）については、18項目の質問項目があり1因子構成となっている。また、菊池（2007）は大学生を対象とした分析結果から因子の構成として①問題解決のスキル、②トラブル処理のスキル、③コミュニケーションのスキルの存在を認めている。よって本研究においては、菊池（2007）の指摘した因子構成を用いた。

第1因子は「問題解決のスキル」であり、「相手とのかわり仕事でテキパキとすすめられる能力」とされている。質問項目は6項目であり、「仕事をするとき、何をどうやったらよいか決められますか」といった項目がある。

第2因子は「トラブル処理のスキル」であり、「タイミングを逃さず大ごとにしな能力」とされている。質問項目は7項目で、「何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか」といった項目がある。

第3因子は「コミュニケーションのスキル」であり、「言語的なものだけでなく、非言語的なものもふくめたコミュニケーション能力」とされている。質問項目は5項目で、「他人が話しているところに、気軽に参加できますか」といった項目がある。

以上の因子構成から、社会的スキルは、①問題解決のスキル、②トラブル処理のスキル、③コミュニケーションのスキルという3つの能力を総合したものとして考えることができる。

分析方法

収集データのデータベース化と作表においては、Microsoft Office Excel 2013を用いた。分析において

は、IBM PASW Statistics19を用いた。分析方法としては、収集データの信頼性の検討として α 係数の算出、尺度間の関連性の検討として相関分析をおこなった。

結 果

有効回答率

調査に用いた尺度の有効回答率は Table 1の通りである。男性においては、有効回答数は182人中127人であり、有効回答率は69.78%であった。女性においては、有効回答数は97人中69人であり、有効回答率は71.13%であった。総計として、有効回答数は279人中196人であり、有効回答率は70.25%であった。

情報活用の実践力について

情報活用の実践力尺度における尺度得点と標準偏差は Table 2の通りであった。収集データの信頼性を検討するために Cronbach の α 係数も算出した。

(1) 信頼性と性差

情報活用の実践力の α 係数については、男性 .90、女性 .92、全体 .91であることから、尺度全体としては高い信頼性が示された。

Table 1 有効回答率

項 目	性 別		全 体
	男 性	女 性	
調査対象数	182	97	279
有効回答数	127	69	196
有効回答率	69.78%	71.13%	70.25%

Table 2 高校生における情報活用の実践力の尺度得点と信頼性

項 目	性 別						全体 (N=196)	
	男性 (n=127)		女性 (n=69)		t 値	平 均		
	平 均	α	平 均	α		平 均	α	
1. 収集力	33.11 (4.51)	.48	33.30 (5.40)	.71	.27n.s.	33.18 (4.83)	.57	
2. 判断力	23.87 (4.75)	.68	23.99 (4.94)	.77	.16n.s.	23.91 (4.81)	.71	
3. 表現力	25.09 (5.14)	.71	27.39 (4.43)	.66	3.27**	25.90 (5.02)	.71	
4. 処理力	24.10 (4.80)	.68	23.38 (5.36)	.80	.94n.s.	23.85 (5.00)	.73	
5. 創造力	31.95 (5.71)	.73	30.97 (5.94)	.78	1.12n.s.	31.61 (5.80)	.74	
6. 発信・伝達力	31.67 (5.96)	.73	34.75 (5.02)	.66	3.84**	32.76 (5.83)	.73	
情報活用の実践力	169.80 (23.38)	.90	173.78 (24.07)	.92	1.12n.s.	171.20 (23.64)	.91	

() 内は標準偏差。 ** : $p < .01$ を示す。

Table 3 高校生における社会的スキルの尺度得点と信頼性

項 目	性 別						全体 (N=196)	
	男性 (n=127)		女性 (n=69)		t 値	平 均		
	平 均	α	平 均	α		平 均	α	
1. 問題解決のスキル	19.74 (4.20)	.76	19.38 (3.92)	.74	.60n.s.	19.61 (4.10)	.75	
2. トラブル処理のスキル	23.49 (4.57)	.75	22.72 (4.81)	.79	1.08n.s.	23.22 (4.66)	.77	
3. コミュニケーションのスキル	15.41 (4.27)	.77	15.36 (4.21)	.76	.07n.s.	15.39 (4.24)	.76	
社会的スキル	58.64 (11.45)	.89	57.46 (11.34)	.89	.69n.s.	58.22 (11.40)	.89	

() 内は標準偏差。

しかし、下位因子の α 係数については、男性は .48から .73、女性は .66から .74、全体は .57から .74に収束し、中程度の信頼性が示された。

特に収集力については、男性が .48であり、他の因子の中で最も低い値となった。また、女性の .71と比較しても、男性の方が低いことが示された。

(2) 尺度得点と性差

情報活用の実践力の男性の平均値は169.80、標準偏差は23.38であった。また、女性の平均値は173.78、標準偏差は24.07であった。全体の平均値は171.20、標準偏差は23.64であった。性別について t 検定をおこなった結果、有意差はみられなかった ($t(194) = 1.12, n.s.$)。下位因子については、表現力で有意差がみられ、女性の方が高いことが示された ($t(194) = 3.27, p < .01$)。また、発信・伝達力でも有意差がみられ、女性の方が高いことが示された ($t(194) = 3.84, p < .01$)。

社会的スキルについて

社会的スキル尺度における尺度得点と標準偏差は Table 3の通りであった。収集データの信頼性を検討するために Cronbach の α 係数も算出した。

(1) 信頼性と性差

社会的スキルの α 係数については、男性 .89、女性 .89、全体 .89であることから、尺度全体としては高い信頼性が示された。

下位因子の α 係数については、男性は .75から .77、女性は .74から .79全体は .75から .77に収束し、中程度の信頼性が示された。下位因子や性別で大きな数値の差

異はみられなかった。

(2) 尺度得点と性差

社会的スキルの男性の平均値は58.64, 標準偏差は11.45であった。また, 女性の平均値は57.46, 標準偏差は11.34であった。全体の平均値は58.22, 標準偏差は11.40であった。性別について t 検定をおこなった結果, 有意差はみられなかった ($t(194) = .69, n.s.$)。下位因子においても有意差はみられなかった。

相関分析について

本研究における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係の検討をするために, 相関分析をおこなった。

(1) 男子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

男性の相関図については Table 4の通りである。無相関検定の結果, 収集力とコミュニケーションのスキルは有意ではなく, 相関の無いことが確認された。また, 判断力とコミュニケーションのスキルは5%水準で有意であり, 相関が確認された。その他の全ての項

目では1%水準で有意であり, 相関が確認された。

情報活用の実践力と社会的スキルでは, 中程度の強さで正の相関が確認された ($r = .64, p < .01$)。

下位尺度間においては, 処理力と問題解決のスキルの相関が最も強かった ($r = .64, p < .01$)。また, 収集力とコミュニケーションのスキルが最も弱く, 無相関であった ($r = .17, n.s.$)。

男性の社会的スキルにおいては, 情報活用の実践力の処理力と最も相関の強いことが示された ($r = .61, p < .01$)。また, 情報活用の実践力の収集力と最も相関の弱いことが示された ($r = .32, p < .01$)。

(2) 女子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

女性の相関図については Table 5の通りであった。無相関検定の結果, 収集力とコミュニケーションのスキル, 表現力とコミュニケーションのスキル, 処理力とコミュニケーションは5%水準で有意であり, 相関が確認された。その他の全ての項目では1%水準で有意であり, 相関が確認された。

Table 4 男子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

項目 ($n=127$)	情報活用の実践力						社会的スキル			
	i1	i2	i3	i4	i5	i6	i	s1	s2	s3s
収集力 (i1)										
判断力 (i2)	.57**									
表現力 (i3)	.46**	.38**								
処理力 (i4)	.47**	.51**	.53**							
創造力 (i5)	.41**	.51**	.40**	.53**						
発信・伝達力 (i6)	.41**	.41**	.61**	.60**	.51**					
情報活用の実践力 (i)	.71**	.73**	.75**	.80**	.75**	.80**				
問題解決のスキル (s1)	.38**	.43**	.48**	.64**	.49**	.56**	.66**			
トラブル処理のスキル (s2)	.30**	.40**	.47**	.57**	.50**	.53**	.62**	.75**		
コミュニケーションのスキル (s3)	.17	.21*	.35**	.40**	.37**	.32**	.41**	.60**	.61**	
社会的スキル (s)	.32**	.40**	.50**	.61**	.52**	.54**	.64**	.89**	.90**	.84**

** : $p < .01$, * : $p < .05$ を示す。

Table 5 女子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

項目 ($n=69$)	情報活用の実践力						社会的スキル			
	i1	i2	i3	i4	i5	i6	i	s1	s2	s3s
収集力 (i1)										
判断力 (i2)	.45**									
表現力 (i3)	.48**	.38**								
処理力 (i4)	.49**	.51**	.65**							
創造力 (i5)	.49**	.75**	.44**	.59**						
発信・伝達力 (i6)	.48**	.39**	.59**	.61**	.45**					
情報活用の実践力 (i)	.74**	.76**	.75**	.83**	.82**	.75**				
問題解決のスキル (s1)	.37**	.49**	.42**	.44**	.60**	.57**	.63**			
トラブル処理のスキル (s2)	.31**	.54**	.33**	.41**	.63**	.33**	.56**	.66**		
コミュニケーションのスキル (s3)	.27*	.43**	.27*	.24*	.54**	.36**	.46**	.63**	.66**	
社会的スキル (s)	.36**	.56**	.39**	.42**	.68**	.47**	.62**	.86**	.90**	.87**

** : $p < .01$, * : $p < .05$ を示す。

情報活用の実践力と社会的スキルでは、中程度の強さで正の相関が確認された ($r = .62, p < .01$)。

下位尺度間においては、創造力とトラブル処理のスキルの相関が最も強かった ($r = .63, p < .01$)。また、処理力とコミュニケーションのスキルが最も弱かった ($r = .24, p < .05$)。

女性の社会的スキルにおいては、情報活用の実践力の創造力と最も相関の強いことが示された ($r = .68, p < .01$)。また、情報活用の実践力の収集力と最も相関の弱いことが示された ($r = .36, p < .01$)。

(3) 高校生全体の情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

男女全体の相関図については Table 6 の通りであった。無相関検定の結果、全ての項目では1%水準で有意であり、相関が確認された。

情報活用の実践力と社会的スキルでは、中程度の強さで正の相関が確認された ($r = .63, p < .01$)。

下位尺度間においては、処理力と問題解決のスキルの相関が最も強かった ($r = .57, p < .01$)。また、収集力とコミュニケーションのスキルが最も弱かった ($r = .21, p < .01$)。

男女全体の社会的スキルにおいては、情報活用の実践力の創造力と最も相関の強いことが示された ($r = .57, p < .01$)。また、情報活用の実践力の収集力と最も

相関の弱いことが示された ($r = .33, p < .01$)。

(4) 情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係の特徴

男性、女性、全体の相関図から相関係数で最も強い項目と弱い項目を集約した (Table 7)。

社会的スキルと最も相関が強い情報活用の実践力の因子から、男性は処理力があげられ、「収集した情報に適切な処理を加えて、必要な情報を読み取る能力」が関係していることが示された。

女性と男女全体においては創造力があげられた。よって、「自分の考えや意見を持ち、情報を創造する能力」が、社会的スキルと関係していることが示された。

一方で、社会的スキルと最も相関が弱い情報活用の実践力の因子から、男性、女性、男女全体においては、収集力があげられた。よって、「目的に応じて必要な情報をもれなく適切な手段で主体的に収集する能力」が、社会的スキルとあまり関係していないことが示された。

考 察

本研究では、高度情報通信社会が展開する中において、高等学校における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係を検討することを目的とした。

Table 6 高校生男女全体における情報活用の実践力と社会的スキル相互関係

項目 (n=127)	情報活用の実践力						社会的スキル			
	i1	i2	i3	i4	i5	i6	i	s1	s2	s3s
収集力 (i1)										
判断力 (i2)	.52**									
表現力 (i3)	.46**	.37**								
処理力 (i4)	.48**	.51**	.54**							
創造力 (i5)	.44**	.60**	.38**	.56**						
発信・伝達力 (i6)	.42**	.39**	.62**	.56**	.45**					
情報活用の実践力 (i)	.72**	.74**	.74**	.80**	.76**	.77**				
問題解決のスキル (s1)	.37**	.45**	.44**	.57**	.52**	.53**	.64**			
トラブル処理のスキル (s2)	.30**	.45**	.39**	.51**	.55**	.43**	.58**	.72**		
コミュニケーションのスキル (s3)	.21**	.29**	.31**	.34**	.43**	.32**	.42**	.61**	.63**	
社会的スキル (s)	.33**	.45**	.44**	.54**	.57**	.48**	.63**	.88**	.90**	.85**

** : $p < .01$, * : $p < .05$ を示す。

Table 7 高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係の特徴

性別	情報活用の実践力					
	社会的スキルと最も相関が強い			社会的スキルと最も相関が弱い		
	因子名	定	義	因子名	定	義
男性	処理力	収集した情報に適切な処理を加えて、必要な情報を読み取る能力		収集力	目的に応じて必要な情報をもれなく適切な手段で主体的に収集する能力	
女性	創造力	自分の考えや意見を持ち、情報を創造する能力				
全体						

有効回答率

調査の有効回答数は279人中196人であり、有効回答率は70.25%であった (Table 1)。研究実施者の振り返りから、コンピュータ上で回答を促した際に、コンピュータの操作に不慣れで手間取っていた生徒が散見された。結果として操作の不慣れが有効回答率を下げた可能性もある。調査にコンピュータを用いる際は、操作性にも配慮し、分かり易い画面構成や教示の仕方を工夫する必要がある。

情報活用の実践力

(1) 信頼性と性差

情報活用の実践力全体における下位因子の α 係数は、.57から.74に収束したことより、中程度の内的整合性に基づく信頼性が確認された (Table 2)。

しかし、収集力の因子だけが.57と比較的に低い傾向があり、検討項目として残された。特に男性が.48であり、女性の.71よりも低かった。質問項目を検討すると、収集手段のツールとして教科書と参考書 (質問項目2)、辞書や辞典 (質問項目4)、カタログや雑誌 (質問項目5)、本や雑誌 (質問項目7)、新聞やテレビ (質問項目9) があげられている。よって、これらの情報収集のツールは、男性の現状に整合していない可能性がある。また、質問項目にはインターネットのツールが欠如していた。総務省 (2014) によれば、2013年度末のインターネット利用者数は10,044万人、人口普及率は82.2%であることから、今日の社会情勢と整合していない可能性も推察される。

一方で、情報活用の実践力の全体の α 係数においては.91であることから、尺度全体としては高い信頼性が示された。

(2) 尺度得点と性差

情報活用の実践力の性別について t 検定をおこなった結果、全体では有意差はみられなかった (Table 2)。

しかし、下位因子については、表現力と発信・伝達力において女性が男性よりも有意に高かった。質問項目を検討すると、表現力では、文章や図表を丁寧に整理できることを問う質問が多かった。また、発信・伝達力においては、周囲に気配りができることを問う質問が多かった。それらの力について、女性の方が高い可能性が示された。

社会的スキル

(1) 信頼性と性差

社会的スキルにおける下位因子の α 係数は、.75から.77に収束したことより、中程度の内的整合性に基づく信頼性が確認された (Table 3)。また、性別による α 係数は、全て.74から.79に収束しており、性差はみられなかった。社会的スキル全体の α 係数において

は.89であることから、尺度全体としては高い信頼性の傾向が示された。

以上から、本研究であつかった社会的スキルにおいては、信頼性は安定的で高く、性差はみられないことが示された。

(2) 尺度得点と性差

社会的スキルの性別について t 検定をおこなった結果、有意差はみられなかった (Table 3)。下位因子においても有意差はみられなかった。

よって、高校生においては、本研究であつかった社会的スキルの差がないことが示された。また、社会的スキルを構成する、問題解決のスキル、トラブル処理のスキル、コミュニケーションのスキルについて、性差のないことが示された。

相関分析

(1) 男子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

男性の社会的スキルにおいては、情報活用の実践力の処理力と最も相関の強いことが示された (Table 4)。処理力の質問項目を検討すると、問題の筋道を立てることや、結論を導くことができることを問う内容が多い。男性の場合は、それらの力が社会的スキルと関係の強い可能性が示唆された。

(2) 女子高校生における情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

女性の社会的スキルにおいては、情報活用の実践力の創造力と最も相関の強いことが示された (Table 5)。創造力の質問項目を検討すると、自分の考えや意見を持つことができることを問う内容が多い。女性の場合は、それらの力が社会的スキルと関係の強い可能性が示唆された。

(3) 高校生全体の情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係

男女全体の社会的スキルにおいては、情報活用の実践力の創造力と最も相関の強いことが示された (Table 6)。創造力の質問項目では、自分の考えや意見を持つことができることを問う内容が多い。よって、男女全体的場合は、それらの力が社会的スキルと関係の強い可能性が示唆された。

(4) 情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係の特徴

社会的スキルと最も相関が強い情報活用の実践力の因子 (Table 7) から、男子高校生は処理力型であることが示された。社会的スキルに対して、「収集した情報に適切な処理を加えて、必要な情報を読み取る能力」が関係していることが示された。周囲の情報に対して、問題の筋道を立てることや、結論を導く力が高いと、社会的スキルも高い可能性が示唆された。

女子高校生は創造力型であることが示された。社会

的スキルに対して、「自分の考えや意見を持ち、情報を創造する能力」が関係していることが示された。周囲の情報に対して、自分の考えや意見を持つ力が高いと、社会的スキルも高い可能性が示唆された。

また、高校生男女全体では創造力型であることが示された。例えば、クラス全体の場面において、自分の考えや意見を持つ力が高いと、社会的スキルも高い可能性が示唆された。

一方で、男性、女性、男女全体においては、社会的スキルと最も相関が弱い情報活用の実践力の因子として、収集力があげられた。社会的スキルに対して、「目的に応じて必要な情報をもれなく適切な手段で主体的に収集する能力」は、あまり関係していないことが示された。例えば、クラス全体の場面で、何でも情報を知ろうとする力が高くて、社会的スキルが高いとは限らない可能性が示唆された。

総合考察

考察を通じて、高校生の情報活用の実践力と、学校生活での適応に関連する社会的スキルの関係性について検討した。

その結果、男女全体においては情報活用の実践力における処理力や創造力が、社会的スキルと関係の強いことが理解された。高度情報通信社会が展開する中において、情報を適切に処理し、新たな情報を創造できる能力を兼ね備えた高校生が、結果として社会的スキルも高いことが結論として得られた。

今後の展望として、高校生のインターネットの利用や対人関係を対象としたソーシャルスキルトレーニングの場面に、情報活用の実践力の処理力や創造力の知見を取り入れることがあげられる。例えば、生徒間でいじめの前兆になるような情報を適切に見分け、処理する能力を育成することがあげられる。また、誹謗中傷ではなく、別の楽しい話題を創造する能力を育成することもあげられる。それらの取り組みが、総務省(2011)や文部科学省(2014)が報告している、インターネットや携帯電話等を介したいじめや誹謗中傷などの問題に対する対処法の1つになる可能性もある。

本研究の限界として、学年集団を数量的に分析したものであり、生徒個人の特性は考慮しない内容となっ

た。また、学習環境が比較的落ち着いている私立高校1校の2年生のみを対象としており、必ずしも高校生全体を反映できる分析結果とは限らない。今後、複数の高校で調査をすることや、情報活用の内容を問うような自由記述形式による質的検討の必要性も残された。

高度情報通信社会が展開する中で、引き続きインターネットや携帯電話等を介したいじめや誹謗中傷、学校生活の適応などの問題が予想される。今後も情報活用の実践力と社会的スキルの相互関係について吟味していく必要がある。

引用文献

- 河村茂雄 (1999). 生徒の援助ニーズを把握するための尺度の開発：学校生活満足度尺度（高校生用）の作成 岩手大学教育学部研究年報, 59 (1), 111-120.
- 菊池章夫 (1988). 思いやりを科学にする一向社会行動の心理とスキル, 川島書店.
- 菊池章夫 (2004). KiSS-18研究ノート 岩手県立大学社会福祉学部紀要, 6 (2), 41-51.
- 菊池章夫 (2007). 社会的スキルを測る :KiSS-18ハンドブック, 川島書店.
- 文部省 (1998). 情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて（情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 最終報告）1998/08 答申等.
- 文部科学省 (2002). 情報化が子どもに与える影響（ネット使用傾向を中心として）に関する調査報告書.
- 文部科学省 (2014). 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査.
- 総務省 (2011). 平成23年版 情報通信白書.
- 総務省 (2014). 平成26年版 情報通信白書.
- 高比良美詠子・坂元 章・森津太子・坂元 桂・足立にれか・鈴木佳苗・勝谷紀子・小林久美子・木村文香・波多野和彦・坂元 昂 (2001). 情報活用の実践力尺度の作成と信頼性および妥当性の検討 日本教育工学雑誌, 24 (4), 247-256.

— 2015. 1. 29受稿, 2015. 3. 7受理 —

Mutual relationship of practical use of information and social skills in high school students

Tadahiro YANAGI (*Graduate School of Psychology Tokyo Seitoku University*)

Akinori NISIMURA (*Tokyo Seitoku University*)

Kazuyosi SASAKI (*Waseda University*)

In this study, it was intended to examine the mutual relationship of practical use of information and social skills in high school students. Results of correlation analysis, processing power and creativity power in practical use of information utilized in the entire men and women, it has been shown strong social skills related. Advanced information and communications society is deployed, a high school student's ability to create the proper treatment to new information is, that social skills also high has been suggested.

Key words: high school students, practical use of information, social skills.

Bulletin of Clinical Psychology, Tokyo Seitoku University
2015, Vol. 15, pp. 39-46